

# 新年会記念俳句会優秀作品

平成十六年二月二日

## 入選

### 一、冬木の部

葉の落ちし 冬木色どる 豆電球

冬枯木 肩寄せ合ふ 雀ども

長谷川 晴生  
永桶 栄資

### 二、菊の部

菊の香を 食し楽しむ 越後人<sup>びと</sup>

鈴木 武

### 三、雪の部

読書する 雪しんしんと 窓の外

湯の先に 雪せまりくる 山の宿

雪の朝 一夜で帰る<sup>ひとよ</sup> 子供たち

坪井 正康  
滝口 恵介  
鈴木 圀彦

### 四、小春日の部

小春日や 越後の冬の ゴルフかな

小春日に 遊ぶ子らの 声樂し

小春日や 猫もうたたね 吾が腕<sup>かひな</sup>

坪井 正康  
佐藤 秀夫  
永桶 栄資

### 五、十二月の部

頼られて ぼったくられて 十二月

馬場 信彦

## 六、冬囲の部

冬囲 越後の庭は ミュージアム  
冬囲 喜んでゐる 庭の木々  
冬囲 雀集いて 会議中  
冬囲 今年は役に 立つのやら

長谷川 晴生  
馬場 信彦  
丸山 征夫  
佐藤 栄祐

## 選者吟

## 武藤昭三会員

雲光り 目路の冬木の 黒く見え  
桃冬木 脚立踏まえて 徒枝を切る  
をちこちの 車道を掘るや 十二月  
栗岳の 雪のきらめく 日和なり  
降る雪を 蹴りけりボール 飛び行けり

## 佳作

ひとときの 夕日を宿す 枯木立  
厳しさや 冬木は凜と 道しるべ  
初雪に 映す心の 白さかな  
初雪や 喜ぶ稚児を 思い出す  
長靴の 雪踏む音の 心地よし  
波の華 雪舞い荒ぶ<sup>すさぶ</sup> 日本海  
子供たちの はしゃぐ雪なき 越の空  
旅半ば そっと佇む 雪の町

田中 久作  
馬場 信彦  
熊倉 高志  
野崎 正明  
坪井 正康  
羽賀 孝行  
馬場 茂夫  
大溪 秀夫

姿変え 庭の草木も 雪化粧

嘉瀬 修

四君子の 晩菊供えて 父母偲ぶ

渡邊 久晃

名湯を めぐる小春の 老二人

馬場 茂夫

冬囲 亡き父慣ひて 我と妻

永桶 栄資

日のさして 雨だれ落つる 寒の入り

嘉瀬 修